

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 30 日現在

機関番号：51303

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25580010

研究課題名(和文) ミャンマーの南方仏教・パーリ語古写本と絵画資料の現地調査及び研究

研究課題名(英文) A Research for Old Palm-leaf Manuscripts and Parabikes in Myanmar

研究代表者

笠松 直 (Kasamatsu, Sunao)

仙台高等専門学校・総合科学系・准教授

研究者番号：40510558

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的はミャンマーの僧院に所蔵される貝葉古写本・折本絵画写本を電子的に保存することにある。代表者はPTSのPruitt博士及び協力者たちと共にモン州タトンのサダンマジョーティカー僧院所蔵写本の現地調査・撮影を行った。同図書館には、若干数の第五結集以前の写本その他、多様なジャンルの写本が所蔵されている。

写本の電子化の他、我々は現地の人々の文化遺産保護意識を高め、写本資料を斯界に利用可能なよう整備することを目指した。我々は情報工学者と協力して「電子ブック」や写本カタログをウェブ上に整備し、現地信者組織を訓練して写本取扱法を教授した。彼らは自律的に写本を維持管理して行くことが可能となった。

研究成果の概要(英文)：The aim of this project is to digitize palm-leaf manuscripts and parabaiks in Myanmar. We, S. Kasamatsu, Dr. W. Pruitt of Pali Text Society and our collaborators have concentrated on researching and photographing the collection in the U Pho Thi Library of Saddhammajotika Monastery, Thaton, Mon State. The library does not have many texts written before the Fifth Council, held in 1857, but includes a great variety of texts useful for studying.

Our objectives, in addition to digitize manuscripts, are as follows: Encouraging people in Myanmar to conserve their heritage of manuscripts, and making it available to scholars throughout the world. Thanks to my colleagues of computer scientists, we are uploading our "electronic books" and preliminary catalogue on our web pages. A group of laypeople who maintain the Library have learned how to care for the manuscripts. They will be able to be more efficient in caring for the library after we have gone.

研究分野：インド学・仏教史学

キーワード：南方仏教 パーリ語 貝葉(Palm-Leaf)写本 折本写本(parabaik) パーリ文献協会 情報工学

1. 研究開始当初の背景

南方(上座部)仏教は、紀元前の初期仏教以来の伝統を伝え、東アジア地域に伝わった北伝(大乘)仏教とは異なる文化的価値を持つ。スリランカないし東南アジア諸国で篤く信仰され、当該地域の文化の基盤をなしている。各地にパーリ語による仏教文献が貝葉写本の形で伝わるが、しばしば保存状態と管理体制に問題を抱え、湮滅・散逸の危機にある。世界史的にも価値が高いこれらの文化遺産の保護・調査のため、研究者ないし研究機関等が各地で調査・資料収集、カタログ制作と情報公開を進めているが、文献群の全容はなお明らかでない。

ミャンマー(ビルマ)は2011年以来、急速に民主化が進み、実質的な開国がなされた。本研究代表者(笠松)は、この機を利用して、パーリ文献協会(PTS)出版担当理事 W. PRUITT 博士と共にミャンマー所伝の貝葉写本(等)の調査・研究を試みることにした。今後発展が期待される同地域の文化の理解増進は、当該分野研究者のみならず、ミャンマーと直接接触する機会をもつ一般社会人にも望ましいであろう。現地社会は急速な経済発展を見ている。このような場合には我々の経験から見ても 伝統文化への配慮を欠きがちである。小なりとはいえ彼らの根幹文化の保全に資することは、我々の国際的な友誼の上でも文化史に対する責任の点でも極めて重要かつ喫緊の事業である。

2. 研究の目的

本計画は、パーリ文献協会及びミャンマー現地の僧院と協働し、二年間の集中的な調査によって僧院所蔵の古写本や絵画資料を電子的に収集することで、以下の二つの目標を達成しようとするものである：

- (1) 調査の概要と得られた成果を速やかに報告、公表して斯界の研究促進を期する。
- (2) 写本収集業務を通じて現地図書室司書等の協力者たちの人材・技術育成を援助し、地域住民の意識を向上し、文化遺産の自律的継承・保全を支援する。

南方仏教研究の中核的課題はパーリ語で書かれた文献の読解にある。PTS は、19 世紀以来現在に至るまで、原典の校訂本・辞書や索引など研究上の「工具」類・研究論文誌の刊行を継続して斯界に貢献してきた。しかし、嘗て K. R. NORMAN が指摘した如く、現行の PTS の原典校訂本には諸種の問題を含む。校訂に際して十分な資料が得られず、あるいは校正不十分のまま印刷されることもあった模様である。本研究計画で取得した写本テキストの情報は、将来の PTS 校訂本の再校訂のための基礎資料となる。

3. 研究の方法

本研究は以下 (1)~(3) の三要素からなる：

(1) 現地調査

笠松(仙台高専)と河崎豊(大谷大)は PTS の W. PRUITT 及び Aleix R FALQUES(Cambridge 大博士院生)と共同で現地の僧院(シャン州タ・レイ僧院；モン州タトン市、サダンマジョーティカー僧院)に赴き、所蔵の貝葉写本及び折本紙写本を写真撮影して電子的に記録する。この際、写本の寸法を始めとする諸要目のデータを採取する。

文献学者にとって最大の関心事は、1871 年にマンダレー(Mandalay)で行われた第 5 回結集ないしラングーン(Rangoon)で行われた第 6 回結集(1954 - 56 年)以前に筆写された写本である。特にこれらについては優先的に撮影する。

本調査計画では、同僧院所蔵の写本すべてを悉皆撮影する。

写本情報収集を試みる最たる目的は PTS 本再校訂へ向けた基礎情報を得るにある。他方、嘗て NORMAN が提言したように、PTS は聖典に対する復註類・東南アジア撰述の文学・伝統文法学等の非聖典文献資料の校訂・出版に注意を向けつつある。本調査計画はこうした領域の基礎資料収集に資する。さらに将来の研究における需要を見据えて、ビルマ語・モン語文献も撮影する。

上述の如き当該図書室所蔵の多様な資料の概要を斯界に公表するため、簡易なカタログを纏め、早期に出版する。

これに加えて、本調査においては、僧院配置図や諸尊格や天界・地獄界などを描く諸世界図、ホロスコープ等の諸種の絵画資料や、20 世紀初頭に印行された稀覯洋装本も積極的に撮影する。絵画資料は図像学者の興味を惹こうし、教学的興味もあろう。

(2) 文献学研究

本計画は、現代的水準によるパーリ文献の新規校訂と、それに基づく訳注・文法研究を促進するため資料を収集する。この際、収集した資料の価値を評価する必要がある。そこで『*Jināḷankāra* 勝利者の装飾』研究を試行する。同書は、12 世紀頃のスリランカの学僧ブッダラッキタが著した、パーリ語による仏伝詩文学である。本計画の調査地にも複数の関連写本が見られる。南方仏教圏に広く永く重視され、彼らの仏教理解の一端を担ったものである。同書の紹介及び検討は東南アジア仏教理解に資すると考えられる。

古く 1894 年に J. GRAY が *Jināḷankāra* 本文の校訂・翻訳を公けにした。但し、底本とした写本群の情報を与えないなど、現代的水準の再校訂を要するものと考えられる。インド文化圏の古典文献の理解に不可欠な注釈書等の現代的な出版もなされていない。

そこで我々が取り組むべき課題は以下の

二点に集約される：底本とする写本を、その系統を含めて明らかにし、*Jinālaṅkāra* 本文を現代的水準で再校訂する；*Jinālaṅkāra* に対する注釈文献（著者自身による自註も含む）の写本を収集し、校訂して斯界に提供する。こうして研究基盤を整備してのち、語彙・文法研究、翻訳研究が可能となる。

(3) 情報工学による支援

タトン市・サダンマジョーティカー僧院が蔵する貝葉写本は約 800 束ある。貝葉で数えれば 10 万葉にも達しよう。人の手によっては、この膨大な数量のデータを処理し得る見込みはない。現時点で研究上の需要があればデータ処理の労を取る者がある（例えば *Petaṅgaṭṭhathakathā* など）、そうした価値が認められる見込みのない文献が多数あり、現状では収集した資料群のほとんどは公表される道を持ち得ない。

そこで撮影した電子写真から貝葉写本の領域のみを自動切り出し処理して「電子ブック」を作成する手法を確立し、この形式で研究者にデータを提供するシステムを構築すれば、安価にかつ速やかに研究資料を配布でき、ニッチな領域の研究ニーズを充たし、研究を促進することができるものと考えられた。この目的のため、笠松は逢坂雄美（研究協力者、仙台高専名誉教授）と合議の上、藤原和彦（同准教授）、宮尾正大（室蘭工大名誉教授）各氏の助力を仰ぎ、情報工学の手法を援用したデータ処理ツール群を作成し、データをウェブ等で利用可能なような手法を構築することとした。

4. 研究成果

本研究の成果は、「研究の方法」の三要素に対応して、以下 (1)~(3) に纏めることができる：

(1) 現地調査

本研究の調査対象地は 2 つある。シャン州タ・レイ僧院とモン州サダンマジョーティカー僧院とである。現地協力者が多数確保できることから、後者に調査資源を集中したが、この間の事情や調査地の現況、収集した資料の概要の報告を雑誌論文 1, 2, 5 で行った。数万枚の写真撮影し、現地で実物を確認しつつ簡易な写本リストを斯界に提供した（書籍 1）。

研究活動の付随的成果として、現地協力者への技術支援が成功を収めつつあること、現地の研究への理解増進に資したことを付言したい。

サダンマジョーティカー僧院の外護信者団体は写本の整理、オイリングなどに極めて好意的・協力的であり、当研究チームの指導の下、地元文化遺産を保護・維持する技術を急速に身につけている。彼らの技能が向上するにつれ、撮影効率も上がり、現在までに同僧院所蔵の写本の約 7 割の撮影を終了した。

また、現地では日欧共同研究者が当該寺院を中心に活動しているということが人づてに知られ、同寺院は近隣の寺院の学僧の訪問を複数回受けている。我々の研究は現地に好感をもって受け入れられているものと考えられる。このように、他の僧院等にも我々の調査への理解が進みつつあり、調査に協力する僧院はさらに増える見込みである。

(2) 文献学研究

『*Jinālaṅkāra* 勝利者の装飾』研究を試行し、論文 4 にて報告した。

結論的には、GRAY 校訂本に散見される誤植ないし誤記、誤伝が疑われる箇所を、我々が収集した写本群の情報ないし他の東南アジア出版本を参照して正すことができることが明らかとなった。

但し、この報告はあくまで試論であり、使用しうる諸資料を網羅的に精査し、慎重な本文批判を加えて再検討することが望まれる。

他の文献についても同様の作業を行う必要がある。この際、必要な文献の資料を、それを必要とする研究者に速やかに提供するため、情報公開と情報提供システムを構築する必要がある。

(3) 情報工学による支援

先に述べた如く、我々は文献学者のみでは資料整理が困難であることを認識し、情報工学的支援の必要とその手法を提言した（論文 3）。本務校の情報学研究者等の協力を得つつ、画像処理ツール・情報公開の手法を検討し、実用化した（情報の公開については、下記〔その他〕のホームページ等：【「仙台高専チーム」による本研究の紹介頁】、【貝葉写本の簡易カタログ・サンプル閲覧】を参照）。

この「電子ブック」作成ツール群は汎用性が高く、他の同様の写本調査計画にも適用可能である。例えば我々が採取した折本紙絵画写本にも適用できる（同、【折本形式の彩色絵画写本電子ブック】を参照）。

現地調査（写真撮影）の際には、撮影ミスがないよう、複数回のチェックを行うのは勿論である。しかしヒューマンエラーは排除しきれない。ツール群を用いて「電子ブック」を作成する際、現地では気付かれなかった瑕疵等が発見されることがある。情報学者との共同作業は、文献調査を十全とするためにも極めて有用であった（論文 6 に報告）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 6 件)

1. 《共著》藤原和彦、宮尾正大、笠松直、逢坂雄美「貝葉古写本研究への電子工学的支援の実際」「電子ブック」作成手法と調査現

況報告」『南アジア古典学』2015年,第10号(in print)《査読有》

2. 笠松直「Saddhammajotikā 僧院 U Pho Thi 図書室所蔵貝葉古写本調査報告」『印度学仏教学研究』第63巻第2号,2015年3月,pp.896-902《査読有》

3. 笠松直「Jinālaṅkāra 1-2」『仏教学』第56号,2015年2月[4月],pp.49-61《査読有》

4. 《共著》藤原和彦,笠松直,逢坂雄美「貝葉古写本研究への電子工学的支援について—ミャンマー仏教古写本の「電子ブック」化の提案—」『南アジア古典学』2014年,第9号,pp.199-206《査読有》

5. 笠松直「ミャンマー僧院所伝のパリー語古写本の現地調査—初期調査概要の報告と今後の展望—」『論集』(印度学宗教学会)2013年12月[2014年]第40号,pp.112-102《査読有》

6. 笠松直「ミャンマー所伝南方仏教古写本調査報告—シャン州 Thar-lay 僧院を中心として—」『印度学仏教学研究』第62巻2号,2014年3月,pp.848-842((217)-(223)頁)《査読有》

〔学会発表〕(計5件)

1. 笠松直「Saddhammajotikā 僧院所蔵貝葉古写本調査報告」,日本印度学仏教学会第65回学術大会 2014年8月31日(日)於 武蔵野大学《東京都西東京市》

2. 笠松直「Jinālaṅkāra 及び Tīkā 校注研究報告—Thar-lay, Saddhammajotikā 僧院所蔵貝葉写本に基づく—」,仏教思想学会 第三十回学術大会 2014年7月12日(土)於 東京大学《東京都文京区》

3. 笠松直「Saddhammajotikā 僧院 U Pho Thi 図書室所蔵貝葉及び parabike 写本調査報告」,印度学宗教学会 第56回学術大会 2014年6月1日(日)於 種智院大学《京都府京都市》

4. 笠松直「ミャンマー所伝南方仏教古写本

調査報告—Thar-lay 僧院を中心として」日本印度学仏教学会 第64回学術大会 2013年9月1日(日)於 島根県民会館《島根県松江市》

5. 笠松直「シャン州 Thar-lay 僧院所蔵パリー語古写本調査報告」,印度学宗教学会 第55回学術大会 2013年6月2日(日)於 駒沢女子大学《東京都稲城市》

〔図書〕(計1件)

1. William PRUITT, Sunao KASAMATSU, Aleix RUIZ-FALQUÉS, Yutaka KAWASAKI, and Yumi OUSAKA. *Manuscripts in the U Pho Thi Library, Saddhammajotika Monastery, Thaton, Myanmar*. Chuo Academic Research Institute Tokyo 2014 [Philosophica Asiatica Monograph Series 1]

〔産業財産権〕
出願状況(なし)
取得状況(なし)

〔その他〕
ホームページ等
【パリー文献協会による本研究の紹介頁】
<http://www.palitext.com/subpages/thaton.htm>

【「仙台高専チーム」による本研究の紹介頁】
<http://hirose.sendai-nct.ac.jp/~ousaka/>

【貝葉写本の簡易カタログ・サンプル閲覧】
<http://hirose.sendai-nct.ac.jp/~ousaka/1109G/CatalogoNoTitle.htm>

【折本形式の彩色絵画写本電子ブック】
<http://hirose.sendai-nct.ac.jp/~ousaka/1109G/UPTParabik.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

笠松直 (KASAMATSU, Sunao)

仙台高等専門学校・総合科学系・准教授
研究者番号: 40510558

(3) 連携研究者

逢坂雄美 (OUSAKA, Yumi)

仙台高等専門学校・総合科学系・名誉教授
研究者番号: 3015036

河崎豊 (KAWASAKI, Yutaka)
大谷大学・真宗総合研究所・特別研究員
研究者番号： 70362639

William PRUITT (ウィリアム・プルット)

パーリ文献協会・理事 (出版担当)